

教育相談課だより No.10

学校再開に向けて①

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、外出自粛が続いていたときに、「落書き相次ぐ 治安悪化の兆候」というニュースが目にとまりました。何でも、繁華街で人通りが減り、建物などへの落書きが相次いでいるとのことでした。落書きは、単に美観を損ねるだけでなく、凶悪犯罪の誘発にもつながると言われ、早急に対応する必要があるとの内容でした。これまで経験したことのない非常事態に立ち向かっている現在、社会では想定外の様々なことが起こっています。社会で起きていることを、社会の縮図とも言える学校に置き換えて考えてみることで、学校再開に向けてのヒントがあるように思います。そこで、3回に分けて学校再開の際の留意点を、教育相談的な視点で考えてみたいと思います。



〈割れ窓理論〉

落書きが凶悪犯罪の誘発につながるとの指摘は、「割れ窓理論」で説明できます。「割れ窓理論」とは、窓ガラスを割れたままにしておくと、その建物は管理されていないと判断され、ゴミが捨てられたり、侵入されたりし、やがて地域全体の環境悪化につながり、犯罪が多発するという犯罪理論です。逆に言うと、軽犯罪のうちに取り締まることで、犯罪の悪化を抑止できるとされています。この理論を応用し、かつてニューヨーク市では、地下鉄の落書きを徹底的に取り締まった結果、凶悪犯罪も大幅に減少し、治安が劇的によくなったとの報告もあります。ちなみに、この理論に基づいて、1990年代にアメリカでは“ゼロトレランス”という考え方が学校現場に導入されましたが、“ゼロトレランス”の考え方には善し悪しがあるとされています。

学校においても、同様のことは言えると思います。施設の破損をそのままにしておくと、管理上よくないことは当然ですが、例えば、掲示物が破れている、教室にゴミが落ちている等のちょっとしたことでも、やがてそうしたことが日常化され、違和感を感じないようになると思われます。すると、掲示物を破くことやゴミを落とすことに対する罪悪感が薄れることは容易に想像できます。

新型コロナウイルス感染症の拡大で休校が続き、児童生徒にルール（教育相談課だより No.6 参照）の共通理解や十分な指導が困難な中で、分散登校が始まっています。わずかなことでも後回しにせず、早めに対応したり、教師が率先垂範を示したりすることで、児童生徒の意識化を進めることも必要になってくると思われます。